

第6回庄原市市街地公共施設のあり方検討委員会 会議録（摘録）

1. 開催日時 平成30年8月20日（月） 13:30～16:00

2. 開催場所 庄原市役所 5階 第1委員会室

3. 出席委員 西村 和之 委員長・藤谷 善久 副委員長・胡子 悅子 委員
住田 鉄也 委員 ・藤谷 健司 委員 ・松田 智仁 委員

4. 欠席委員 西田 学 委員・八谷 るりこ 委員・本平 正宏 委員

5. 出席職員 企画振興部企画課長 東 健治
企画振興部自治定住課長 森岡 浩
教育部生涯学習課長 花田 讓二
企画振興部企画課企画調整係長 足羽 幸宏
企画振興部自治定住課自治振興係長 中村 雅文
企画振興部企画課企画調整係 原田 淳司

6. 傍聴者 1名

7. 会議次第 別紙のとおり

8. 会議経過 別紙のとおり

第6回 庄原市市街地公共施設のあり方検討委員会 次第

■日時 平成30年8月20日（月）13：30～
■場所 庄原市役所 5階 第1委員会室

1. 開会

2. 議事

（1）庄原市民会館・庄原自治振興センター関係者からの意見聴取について

- ① 庄原市民会館指定管理者：NPO法人 庄原市芸術文化センター
- ② 庄原自治振興センター指定管理者：庄原自治振興区
- ③ 庄原市文化協会

（2）庄原市民会館・庄原自治振興センターの今後の整備について

資料1

（3）次回の委員会開催日程及び今後のスケジュールについて

資料2

3. 閉会

会議経過

1. 開会 東企画課長 挨拶

2. 西村委員長 挨拶

3. 議事

(1) 庄原市民会館・庄原自治振興センター関係者からの意見聴取について

①NPO 法人 庄原市芸術文化センター 13:40~14:05

参加者：関係者 3 名

委員長：市民アンケートや高校生アンケートの結果を見ていただいた上で、また、このたびの豪雨での経験等踏まえて、改めて貴団体のご意見等をお伺いしたい。

関係者：我々の考えとアンケート結果は近いものと思っている。我々も現在地での大規模改修を希望している。ロビーのトイレは今年度洋式化されたが、ウォシュレット機能がついていない。今の時代や高齢者のことを考えるとウォシュレット機能は必須ではないかと思っている。また、楽屋トイレは和式のため不評である。先日の災害時もトイレを開放した。ロビーに関しては、非日常的な雰囲気やくつろげるような照明が必要と思っている。自治振興センターが管理する和室に関しては、椅子、フローリングがよい。ホールの座席に関しては、現在の席数は確保した上で席幅を広げて欲しいという意見が多いが、折衷案として中央通路より前側がゆったり席で、後ろ側は今と同じ幅で席を取り替えることで快適性を改善していただきたい。

ステージ関連の音響や照明、舞台装置や電気系統等に不具合が起きており、市民のステージ発表に支障をきたし、非常に厳しいご意見をいただいている。市民が利用されてこそその施設であるため、早急の改修をお願いしたい。

屋根等の防水改修、排水路改修もお願いしたい。

関係者：市民会館が市民にとってよりよい芸術活動ができる場となるような改修を望んでいる。先日の災害時は、集会室、ホールを開放し利用していただいた。現在の空調の調整は市の職員では難しいので、我々が対応した。また、避難者に高齢者が多いため、和室がある2階に多目的トイレが必要だと感じた。

関係者：空調も老朽化がひどく、26°Cまでしか下がらないため、改修していただきたい。

委員：楽屋の数と面積等が不足していると感じているかどうか、また、サロン化や展示スペースとしての利用希望が多いロビーの状況についてお聞きしたい。

関係者：楽屋は3部屋あり、真ん中が仕切れる洋室、10畳、8畳がある。60人程度でのステージがある場合、女性は楽屋、男性は集会室を利用してもらっている。

大きいイベント時など多くの団体が出る時は、自治振興センター管理の部屋も確保して対応しているため、どうしても楽屋の部屋数が足りないとは今のところ思っていない。

ロビーに関しては、大きいイベント時は外まで並ぶこともあるが、特段イベントが無いときは、サロン化も可能と思う。

委 員：今回の豪雨時に屋上の排水等はどうだったか？

関係者：日赤側の和室の上が一番悪いが、今回は大丈夫だった。ロビー前の排水路がいっぱいになり、ロビーが浸水した。

今のは話と直接関係しないが、市民の芸術活動の利用者のために、貸倉庫があればよいと思う。

②庄原自治振興区 14:08~14:47

参加者：関係者 8名

関係者：基本的に前回と変わらない。和室 CDE を洋室化して、30 名程度の研修室が欲しい。中心市街地にある自治振興区として、旧庄原の振興区の皆さんにも、研修等で使ってもらいたい。庄原自治振興区民は 6 ヶ月前から優先的に予約できるが、取れない状況がある。我々は当初から現在地での改修を望んでおり、アンケートも同じ結果であったと思う。間仕切りでよいので、200 名程度は入れる中ホールを建設いただきたい。今回の災害時には 300 名程度来られたが、入りきれなかったので、市民会館の集会室やホールを使わせてもらった。体育館には冷暖房が無いが、ここにはあるので、やはり避難所として機能していると感じた。

関係者：水害の場合、総合体育館は西城川と同レベルであるため機能しにくい。学校は長期間使用不可とするのは無理。やはり、自治振興センターが中心となると思う。また、区民一人当たりの自治振興センターの面積は 0.052 m^2 。あまりに少ないのでもう少し広さは欲しい。

委 員：調理実習室の使い勝手が悪いと思うがいかがか。

関係者：料理教室を行うが、部屋が狭くガスの配管が一部出ている。夏休み等で子どもが 30 人程度入れば狭くなる。使用頻度は週 1 回程度である。

委 員：和室なら毛布があればこの時期であればなんとかなるが、フローリングでは厳しい。全ての和室を洋室にしたいのか。

関係者：大き目の和室 AB は残して、CDE を洋室化してもらいたい。

委 員：集会室の管理を自治振興区にすれば、新たに中ホールは建てなくてもよいのか。

関係者：庄原市芸術文化センターとは、相談しながら、持ちつ持たれつで施設管理を行っている。集会室は 100 人程度しか入れないので大きい会議はできない。200 人程度入って、間仕切りのできるものが欲しい。

委 員：市民会館大ホールとは別で、300人程度収容で客席のあるホールが欲しいという意見も聞いているが、仮にできた場合、市民会館、自治振興区どちらが管理するのかという問題が出ると思う。ただ、どちらにせよ、予算上厳しいのではないか。仮に中ホールができた場合、管理はどうなるのか。

関係者：ホールというからおかしくなる。今の自治振興センターはただの貸部屋だけになっており、自分たちの活動発表をする場所も無い。なので、1階に展示スペースや交流スペースなど、2階にラフトで間仕切りのできる大きな会議室が欲しいだけである。

委 員：今までの整理として、具体的にどのようなものを望んでいるのか、もう一度お聞きしたい。

関係者：2階に200人程度の間仕切りのできる会議室、1階は展示、交流スペースや事務室などがある建物の新築、現在の建物の改修でいえば、和室CDEの洋室化など30～40人程度入れる部屋をできるだけ作っていただきたい。

委 員：今回の災害では300人避難されたとのことだが、避難計画上、何人収容することを想定しているのか。

事務局：建物面積を避難所における一人当たりの必要面積で割って収容可能人員を出しているが、今、はっきりとした数字は持っていない。今回自治振興区の協力もあり300人の方を収容できたが、市内全体の避難所の再度の見直しを考えていると聞いている。

委 員：今回の委員会は避難所のことまで想定して考えるべきか。

事務局：委員会の立ち上げ当初は避難所のことまでは考えていなかったが、今回300人程度の方が避難されている事実をふまると、大規模改修となれば、避難所としての機能も若干考慮した改修案の検討をいただく必要があると思っていて。2階の多目的トイレ等は必要ではないかと考えている。

委 員：全国的に過疎化が進んでいる。大規模合併をした地域は、福祉から地域整備など全て地域のことは地域でという、丸投げに近い考えになってきている。広い庄原市の20～50年後を考えると、自治振興の観点で各自治振興センターの機能強化が必要である。その中央センターとしての庄原自治振興区の強化が必要と考えるが、現在倉庫も無い、研修室も足りない状況でかなり不満も出ている。市として20年後の自治振興機能の基本方針はあるのか。

委員長：広島県は自治振興推進の先進県で、その中で庄原や三次は自治振興区の先進地となっている。

委 員：総務省で法律を作つて支援しようという議論が出るくらい、庄原市はいい見本となっている。

委員長：そのような状況で、自治振興区の機能をしっかりと欲しいという思いがある。市は庄原自治振興区を、中央のセンターとして、どの機能を持たせようと考えているのか。また、自治振興機能というものをどのように考え、今後

どのように推進するのかというところの整理が必要だと思う。

関係者：地域のことは地域でという考えが基本となるが、人口は減っていく。周辺の農村部も減るので、ますます中央の機能充実が必要だと思う。旧庄原市の中中央公民館として、旧市内全域から人が来ていた。その機能は残ると思う。

関係者：20年後のことを考えても、我々はそんなに贅沢は言っていないと思っている。川手地区の方は今回の水害で特に多く避難された。やはりスペースが必要である。国連発表では、避難所1人あたりにおける必要な面積は約3.3m²、たたみ2畳分必要らしい。総2階の建物があればなんとなると考えている。

事務局：自治振興区のあり方について、20年後までのものは無く、現在は平成37年度までの第2期長期総合計画に基づいている。基本の考えは、自治振興区を中心とした自治協働のまちづくりの推進を、それぞれの自治振興区で、生涯学習活動も含めたそれぞれの活動を、自ら決定し実行していただくことで、達成しようとしている。

委員：自治振興区の人材育成機能を中央センターとして庄原自治振興区が持ち、島根県を含めた中山間地域の中心となるべきである。

③庄原市文化協会 14:50～15:12

参加者：関係者4名

関係者：アンケートの回答にかかる「%」について、市民会館を使っていない人を無視できないのは判るが、使っていないのだから市民会館のことは何もわからないはず。使っている人は、会議での使用、ステージ出演、観覧者等それぞれの立場があるが、文化協会は主催行事から観客側の思いまでわかる。そういうことが分かる人の割合が少ないので、「%」だけに頼るのはいかがなものかと危惧している。

音響について、市民会館のものは壊れていて、ここ数年一切使えていない。個人の機材を持ち出しして活動している。この状況は、喫緊の課題であり、早急に対応していただきたい。また、楽屋が少なく狭いため、改善していただきたい。けんみん文化祭等多くの団体が出る場合、楽屋が2階の研修室等ステージから遠いため不便を感じている。建物西側空地に、4室程度増築していただきたい。大規模改修時には、音響設備全般及び照明等の改修への予算措置をお願いしたい。外壁をタイル等で覆っていただき、夢のある感じにしていただきたい。

関係者：ケヤキの木が大きくなってしまっており、枯枝が落ちそうで危ない。大きな楽器の搬入が難しい状況を改善していただきたい。和室CDEの洋室化及び鏡の設置も要望する。また、アンケートでも不満が多かった客席の座り心地を改善していただきたい。

関係者：アンケートの中で、市民会館が今後担う役割として最も多かったのが、芸術文化活動の発表の場であった。そのことをよくよく考えてもらいたい。ハーダだけではなく、ソフトを充実しないといけないと考える。どういうことをするからどれだけキャパがいるかなど、それを積み上げてもらいたい。管理団体が2つあり、事務所位置も複雑なので不便さを感じている。

関係者：利用者で圧倒的に多いのは高齢者である。その方々に優しい施設であるべきである。

委員長：出演者と観覧者、両方分かる文化協会として、座席をどのようにすればよいとお考えか。

関係者：どれだけホールが満杯になっているのか。さほど満席の回数は無いのではないか。人口が減っていくのはわかっており、なかなか満杯にならず、長時間座ることへの不満が多いと感じており、広くて長時間座れるようにして欲しい。

関係者：座席数で芸能人等出演者のギャラが決まるとき聞いており、800人席程度無いとイベントが呼べない事情もある。席数を減らし、席幅を増やすことのメリット、デメリットを良く考えて改修すべきである。文化協会の行事としては席数が減っても問題は無い。

意見聴取終了

(2) 庄原市民会館・庄原自治振興センターの今後の整備について 資料①

委員長：市として自治振興センターは避難場所になっていると思うが、避難所の収容人数をどのように考えているのか。

事務局：その地域全員を収容できる以上の公共施設がある地域とそうでない地域がある。第1避難所が自治振興センターで、そのあと小学校体育館等を開設するようになっている。

委員長：この委員会で、避難所機能まで考えて今回結論を出そうとすると非常に難しいことになりそうである。

事務局：1次的な危機避難であればよいが、長期化すれば、生活環境等を考える必要が出る。

事務局：資料①を説明。

委員：自治振興センター2階の一番奥にある研修室Gの活用を図るべきである。ほとんど洋裁教室で他の利用が少ないようだ。また、市民会館指定管理者の事務所は広すぎると思う。庄原自治振興区は事務員の人数が多いのに狭い空間となっている。

委員：2つの団体が1つの建物を管理しているが、どこをどちらが管理しているのかわかりにくい。中央公民館の時代は、同じ事務室に市民会館、中央公民

館、両方の事務員がいたと思う。今後も今の体制を続けるのであれば、一度管理する施設について、整理する必要がある。

事務局：2つの団体が同じ事務室でできるかどうか、管理上の影響など検証しなければならない。

委 員：事務室の共同化をはかり、連携をとるべきではないか。利用者の視点で言えばそのほうが分かりやすい。地域の皆さん気が軽く立ち寄れて活動しやすい場であるべきである。

委 員：中央公民館の時代は、機能が似たところもあったので同じ事務室でよかったが、今は2つの事務室を一つにするのは自治振興の考え方から無理である。

委員長：2つの組織を一つの事務室に入つてもらうということは、スペースだけを考えたり、利用者の利便性を考えれば良くなるが、あくまで別の組織を一つの事務所に入れることができなのか。2つの組織のあり方までこの委員会でやるのか。市民文化の発表としての場と自治振興としての場があるが、管理組織のあり方までは踏み込めない。

委 員：自治振興センターの設置目的が達成できるようなものをつくるべきである。

委員長：市が自治振興区、自治振興センターへ何を求めるのか。今回の資料①はハンドのみだがソフト面へ踏み込まないとうまくいかないと思う。市として何らかの整理が必要である。

委 員：生涯学習について庄原自治振興区へ委託しているのだから、それをやりやすいような施設にすべきである。それが、地域振興につながると思う。

委員長：市街地にコパリホールなどがあり、その他いろいろな施設がある。全ての機能を庄原自治振興区が持つ必要があるのか。どの機能を庄原自治振興区が持つべきなのか整理しなければならない。

事務局：庄原自治振興区は人口規模が非常に大きく、各自治会等を中心に生涯学習活動も実施されていると思う。その自治会等の機能の拠点として、中会議室を要望されていると理解している。

委 員：前回市が示した自治振興センター談話室の改修イメージはどういうものか。

事務局：談話室には流し台等があるが利用が少ないため、それらを改修して会議室化したいと考えている。

委 員：庄原自治振興区において、中央センターとしての機能強化が中ホール建設、地区センター機能は和室改修等のイメージでよいのか。

委員長：市役所もそこまでは踏み込めてないはず。今までの話の流れでそういう考えが出たかとは思うが、市役所や庄原自治振興区にもそのような考えは無いと考える。

事務局：自治振興の立場から言うと、それぞれの自治振興区の中で、それぞれがそれぞれの活動をしている。その拠点として各自治振興センターを使っている。実態を言うと、庄原地域の自治振興区の中心となる自治振興区連絡協議会の

事務局は、中央にあるからといって常設の事務所が庄原自治振興区にあるわけではなく、自治振興区連絡協議会の会長が選出されている敷信自治振興区に事務局機能がある。庄原自治振興区は、会議等の場所として、他の自治振興区への会議室の提供はあるのかもしれないが、昔の中央公民館のような機能は、今の庄原自治振興区にはないと考えている。

委 員：市内全体の自治振興区連合会の事務局は、市役所自治定住課内にある。理想を言えば、最も規模が大きい庄原自治振興区が事務局等になればよいが、そこまでは至っていない。

事務局：生涯学習は、22の自治振興区全てに委託している。庄原自治振興センターは中央公民館としていたため、地区外からの施設利用等の受入機能は残っているが、庄原自治振興センターを中央センターにしたいという思いは無い。

委 員：地区センター機能として考えるべきか。

委員長：そう考えていただきたい。

事務局：補足となるが、市民会館の音響や照明設備が限界に達しており、何らかの改修をしなければならない状態であることはお伝えしたい。

(3) 今後の検討委員会のスケジュールについて 資料②

事務局：資料③を説明

本日の会議前に各委員の日程を調整させていただいた。その結果、次回の委員会は、

平成30年9月26日（水）13:30～

場所は後日連絡。

次回の委員会で、それぞれの委員さんに意見を発表していただき、その意見を集約したいと考えている。集約できない場合は、10月に第8回の委員会を開催するが、できれば次回で集約したいと考えている。

16:00 終了

以上、議事の経過ならびにその結果を明確にするため、本会議録（摘要）を作成し、会議録署名人が次に署名する。

平成30年8月20日

会議録署名人 西村和之

会議録署名人 藤谷善久